

つきたい力

集めた情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫し意見をまとめる力

取組みの概要・ポイント

- ①「考えの形成」に至るまでの学習過程を大切にした授業
- ②目標(つきたい力)を達成するためにふさわしい多様な言語活動を取り入れた授業

学校HP



「考えの形成」に向けた授業計画の逆向き設計とふさわしい言語活動の設定

①「考えの形成」に至るまでの学習過程

筆者との対話

C「読むこと」の場面での考えの形成
筆者の主張や工夫を考える。
・順序・対比・事例の比較

自分との対話

B「書くこと」の場面での考えの形成
書くことで自分の考えを整理し、読みを深める。
・モデル文の提示
・チェックポイント
・自分の経験・ふり返り
・推敲・試行錯誤

仲間との対話

A「話すこと・聞くこと」の共有の場面での考えの形成
・友だち、自分のよさを見つける。
・自分の成果物を改善する。

読むこと

構造と内容の把握
精査・解釈

考えの形成

共有

書くこと

題材の設定
情報の収集
内容の検討
構成の検討

考えの形成

記述

推敲

共有

②つきたい力にふさわしい言語活動 学びの必然性を持ち、主体的に学ぶために

(例) 4年生 『工芸品のみりよくを伝えよう』
「隣のクラスに自分の選んだ伝統工芸品のみりよくを伝え、一番買いたいと思う伝統工芸品を選んでもらおう！」

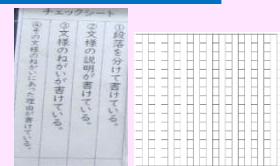
筆者の工夫

「考えの形成」何を考えさせるか
支援の手立てを想定
「精査・解釈」何を読み取らせるか
「構造と内容の把握」何を押さえるか

教員の例文

ゴールのモデルを作成、児童と共有

チェックポイント



- ・試行錯誤や学習の調整ができる場面を設定
- ・推敲できる幅をもたせた原稿用紙を使用

自分事として考える

考えたい 伝えたい

何を考えさせるか

さあ書こう！

再構築・自己調整の場面

前よりよくなった

書いてよかった
書いてうれしい

ことばの力を高める 取組み

新聞ワーク・国語活用プリント・学習用語掲示・ことばのいずみ配付活用・400字で言わせて!作文コンクール・俳句・並行読書

取組みを通しての子どもの変容

- 1年を通して書く意欲や主体性が高まってきた。授業で学んだことを普段の生活の中で活用できるか考えていた。
- 授業づくりに関するアンケート項目で肯定的な回答が上昇した。「話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりしている。」(4月:72.4%⇒12月:76.2%)
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率「思考・判断・表現」で全国・大阪府を上回る結果であった。「読むこと」「書くこと」の正答率が高く、特に記述式問題の正答率が高かった。
 - ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く問題 → 平均正答率73.8%
 - ・物語を読んで条件に合わせて自分の考えを書く → 平均正答率83.3%
 - ・記述式問題の正答率が年々向上(R4年:44.3%⇒R5年:50.5%⇒R6年:78.6%)
 - ・無回答率が減少。(R4年:13.8%⇒R5年:11.3%⇒R6年:3.6%)